

第2回県立大学改革にかかる永国寺キャンパス検討会議事録

平成21年1月27日(火) 13:00~15:00

場所：高知共済会館「桃麗の間」

司会	<p>開会 今回初めて参加した木村靖二委員、佐久間健人委員の紹介 新たな委員として高知短期大学学長代理 関根猪一郎委員の紹介 (学長代理の交替による)</p>
委員長	<p>本日は第2回目の会議となります。 前回の会議では、事務局から、高知県の高等教育の現状、県立大学及び高知工科大学の現状、県立大学改革の経過及び県立大学改革プランの方向性について説明を受けました。 それに基づいて、改革プランの将来構想に位置付けられました社会科学系学部に関しまして、委員の皆様方からご意見をお伺いしました。 その中で、進学者のニーズに関しまして、学生にはニーズはあるのではないか、という意見がある一方で、なお慎重な判断が必要であるとのご意見もございました。そこで、事務局において、県内高校生に対するアンケート調査を実施しておりますので、本日は、それらについてご報告をいただいた後、新たな社会科学系学部の必要性、また、設置する場合にはどのような学部にするのか、その方向性などについて、ご議論をいただきたいと考えています。よろしくをお願いします。 それでは、議事(1)の進学者のニーズに関しまして、資料2「高校生アンケート調査結果」と関連しますので、資料3「社会科学系学部の状況」について、事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料2「永国寺キャンパスでの社会科学系学部の設置に関するアンケート調査報告書」、資料3「全国の大学における社会科学系学部の状況」を説明</p>
委員長	<p>ありがとうございました。 第1回の会議では、「社会科学系学部」の設置は、毎年700名程の学生が県外に流出していることから、その受け皿を拡大する意味からも必要だとの説明があり、意見交換を行ったところですが、今回行った県内の高校生アンケート調査でも、社会科学系への学部・学科の進路希望は相変わらず多く、また新たな学部が設置された場合の希望も多いという数字になっています。 また、全国の公立大学の社会科学系学部を見ましても、十分学生を確保するだけの志願倍率がある状況です。 県内高校生にニーズがありますし、県外からの受験生を考え併せますと、新たな社会科学系学部を作るとした場合に、十分に学生確保も可能であるように思われますが、このアンケート調査結果などに関して、委員の皆さんのご意見などをお伺いしたいと思います。ご意見をお願いします。</p>
H委員	<p>事務局への質問ですが、この調査の対象は県内の高校1年生ということですが、4年制大学への進学希望が公立高校で高くなっています。これは調査対象が、大学進学を目指す人が多い高校だからという理解でよろしいでしょうか。</p>

事務局	比較的進学率の高い公立の5校と私立の5校となっています。
H委員	調査対象高校の実際の4年制大学への進学率は、それほど変わらないと考えていいですか。希望と実際の進学がどう違うかを知りたいのですが。
事務局	そのデータはありませんが、それほど大きく違うのではないかと思います。参考までに、高知県で4年制大学へ進学するのは、全部で3千人くらいです。
委員長	卒業生は何人ですか。
副委員長	<p>具体のデータは持っていませんが、ある程度、N委員がご存じかと思います。確かに1年生の段階では国公立大学志向が高いが、受験の段階になった時に実際に国公立へ行く割合は、かなり低くならざるを得ないということだと思います。</p> <p>4年制大学についても、短期大学へ行く人は減っていますし、今回調査した高校では、専門学校や就職をする学生は少ないと思われるので、その意味では4年制大学へ行く学生が多いというなかで、先ほどの傾向が見られるということです。</p>
N委員	(国公立大学への)進学希望が高いのはこの5校ということです。平成19年度の大学短大入学志願者数で、公立高校の3年生2,104人のうち国公立大学へ実際に進学したのは357人20.6%です。大学進学率は40%ですので、その他については私学や短大へ進んでいるということです。
B委員	社会科学系を希望している学生で、現在は県外を希望しているが、県内に(社会科学系学部ができれば)行きたい学生数がわかる調査はどれですか。
事務局	<p>問12の(1)となっています。</p> <p>県内に社会科学系学部を新設した場合に、希望、検討すると答えた者455名のうち、301名は県外を希望していたということです。</p>
K委員	<p>潜在的な顧客ということが、学生を把握する上で非常に重要で、こういう学部ができたとしても県外へ行くが、こんな条件であれば検討していいという人の数が重要になってくると思います。そういう意味では問10のどういう学部であれば進学を希望するかという数値の分析が重要になってくると思います。</p> <p>複数回答を許しているので読み取りにくいですが、例えば就職がしやすいという回答が重なっているとしても、マックスの947名が条件さえ満たせば県外へ行くのをやめて、これを検討すると考えてよろしいでしょうか。複数回答のオーバーラップのしくみを教えてください。</p> <p>新学部は希望しないが、新学部にこういう魅力があれば検討するという数字が重要で、これはどういう学部をつくるか、どういうキャラクターを持った学部にするのかという時に影響を与えるポイントになるという気がします。</p>
事務局	問10で回答しているのが延べ2,857人、問8に希望しない、わからないと答えたのが1,900人くらいですので、1人が2つは書いていないということになります。

K委員	<p>ミニマムでも947人が就職がしやすい状況なら帰ってくると読み取ることができると解釈していいですね。</p>
H委員	<p>問12の(2)に注目しています。これは社会科学系学部をつくった時に、商・経、法・政をもともと希望していなくても、できたら検討するということだと思いますが、もともと商・経、法・政を希望していて、できたら戻ってくる数字は723対290で、割合としてはかなり低いと思います。</p> <p>これには2つの解釈があって、どういう学部分野に行きたいか固まっていないということか、希望学部は社会科学系だが幅広く関心を持って新学部を注目しているのか、新学部を設計する上で重要だと思っています。調査集計をしていて、何か読み取れる感触があれば教えて下さい。</p>
事務局	<p>読み取りにくいところです。</p> <p>幅広い分野の方が関心を持っているということではないかと思います。</p> <p>問13では、もともと社会科学系学部を希望している者を対象に分析をしており、約半数は社会科学系学部が県内にできたら希望、検討すると答えています。そういう面では効果があると考えています。</p>
M委員	<p>問12の(2)、290人の読み方は、723ひく290で433名が社会科学系学部以外を希望していたが、社会科学系学部が目が向いたと読めると思います。</p>
A委員	<p>検討するというのは微妙でどう考えるかがポイントだと思いますが・・</p> <p>県外から来ている女子大の学生の割合はわかりませんが、ある程度のコアを確保できるかということも大切だと思います。なぜ県外から来てくれているかの統計やアンケート調査があれば参考になりますが。</p>
委員長	<p>女子大の県外の割合はどれくらいですか。</p>
G委員	<p>学部によって違いますが、地元出身者が最大3割で、県外から学生を呼ばないと経営的に難しい状況です。受験生の選択理由としては、例えば看護学部は伝統と優秀な人材を輩出しているという知名度であり、社会福祉学部は四国で公立大学1校という有利さであるかと思います。</p>
K委員	<p>工科大の県内比率は50%くらいです。</p>
B委員	<p>高知大は(県内比率は)22%です。</p>
副委員長	<p>数字の見方は、いろいろな角度から分析できますが、社会科学系のボリュームとしては、学部をつくってもやっていけるのではないかと、基本的な部分では理解をしています。</p> <p>(社会科学系学部の)ニーズが現実的に高1の学生にあるということと、前回の資料で、かなりの数の方が県外の社会科学系に出ているという実態があることを、今回のアンケート調査は裏付ける資料になったと考えています。</p>

委員長

前回の資料、大学学部系統別進学者数の平成19年は、商・経、法・政に2,953名のうち770名が行き、そのうち30人が高知大の経済学科へ行ったということでした。そういうことで商・経は1年生のアンケート調査でも比較的多く希望があり、実際に卒業生も行っているということで傾向としては間違いはないということです。去年県外へ行った740人のうち、社会科学系学部が県内にできれば何人残るかということだと思えます。県内県外ということもありますが、2割残れば150名、3割で230名、1学部の適正人数もあるかと思えますが、無理な数字ではないという気がします。これは、学校の魅力も大きなウエイトであるし、また県内学生だけで運営するわけでもありませんので、県外から魅力を感じて来てくれる学部に育って行くかが問題だと思えます。これは、絶対に無理だということではないと思いますがいかがですか。

G委員

高校生の意識が、学費が安いということと、就職しやすいということに向いていると思えますが、県の産業振興政策と高等教育、政策の意識的連携、さらに就職率との問題で県の受け皿の見通しがあればお伺いします。

委員長

産業振興計画の商工労働部会の部会長をしていますが、高卒の県内就職率が48%となり、10年後までに75%に近づきたいと思っています。少子化で、就職先が今と同じであれば、県内就職率が自動的に高くなるということもあります。

産業振興計画は、今のところ大きな企業誘致はとても難しいので、今ある企業を少しずつ伸ばしていく、1.5次産業で付加価値を付けて雇用促進を図るとしています。農林政策は、働いて若者が暮らせる所得を目指していこうとしています。計画が220項目くらいあり、優先順位に沿って順次進めて行けば雇用は少しずつ増えてくるという期待はあります。国の雇用促進の政策は新年度から具体的に動き出すということですが、どれくらいの雇用が増えるか、数値的な見込みは難しいと思えます。

県の状況は、今まで遅れていたから、落ち込みが少ない傾向で来ています。産業振興計画で行けば雇用は減らないと思っていますし、明るい希望で行きたいところです。

副委員長

県としては、いろんな分野で産業振興を積極的に進めていく、そのための計画を今年度中に策定し、4月から実行に移すということにしています。そういうなかで県内で就職したい、県内に行き場がないという人たちが1人でも多く県内にとどまれるような産業の基盤をできるだけ早く作りたいと取り組んでいます。

そのためには、こういった人材が必要になっているか、社会科学系学部の検討のうえでは考えていただきたいと思っています。

委員長

アンケートについての意見、大学の社会科学系学部の設置状況等についての説明や意見、質問もいただきましたが、新学部は可能性があるかと判断してよいのではないかと思います。あとは内容とかいろいろのことが重要になってくると思います。

次に、議事(2)地域のニーズについてのご意見をお伺いしたいと思います。

第1回検討会でも、検討の一つのポイントとして、具体的には、地域が求める人材や地域振興、社会人教育などの地域貢献活動の話もありました。

卒業生が県内から求められているのかどうかという問題がありますが、その点い

かがでしょうか。まず、事務局の説明をお願いします。

事務局

県内の就職口が少ないということですが、県内3大学には、県内企業から、それぞれ求人があり、20年12月末では、女子大104社、工科大74社、高知大139社とお聞きしています。その他、県庁、市町村など求人が来ないものもあります。

資料はありませんが、県内約3000社のうち、500社の求人状況を掲載した情報誌を見ますと、ほとんどの企業で大学卒採用の実績があり、職種を問わず就職幅が広がっているのではないかと思います。

なお、本日欠席の二人の委員に本日の会議について説明をさせていただいた際、ご意見をいただきました。

- ・厳しい社会を乗り越えられる人材が求められる。大学でもきちんと教育をして欲しい。

- ・就職がないからといって県外に出るのではなく、それなら県内で職場をつくりたい(起業したい)という学生がいて感心した。そういう気概のある人材養成を大学でもお願いしたい。

委員長

県内企業から県内3大学に求人があったのは延べ317社、19年3月の卒業生で県内に就職したのは、女子大が65名で卒業生の34.6%、工科大が42名で13.7%であったということでした。

関連して産業界の状況について話しますと、昨年9月以来の金融不安の影響で製造業における受注が減り始め、11月以降は大変な状況になり、雇用調整にまで影響が及んできています。

比較的、金融機関や行政、農協などでは安定的に大卒者を採用しており、製造業も就職内定取り消しは県内では現在のところ発生していないようです。

しかし懸念されるのは、今後どれだけ不景気が続くかということですが、長い目で見るといずれ回復すると思います。

それと団塊世代の退職も続いていまして、企業の安定した成長ということ言えば、一時的に採用は減らしても、将来の人材確保という意味で採用が出てくると思います。不況の中でも、一定の求人は出てくるという現状だと思います。

大手のメーカーや製造関係は、契約社員の雇用をやめるということも出ていますが、景気が回復すればもとの雇用に近いところまで来ると思います。

そういう意味では新学部が開設される頃には、景気も良くなりつつある傾向になるのではないかという気がするわけです。

それでは、地域のニーズについてご意見ををお願いします。

K委員

参考までに、経済産業省から「企業の求める人材2007」というのが19年に出ています。これは社会人基礎力との関係で、全国の大企業と中小企業からアンケート調査した結果を整理した資料です。大学の基本的な社会人基礎力というのは共通していますので、大学教育のあり方や新学部の参考になるのではないかと思います。

委員長

工科大はマネジメント学部を新設され、何かそういうことを基本に進んでいることがありますか。

K委員

マネジメント学部では、講義中心の教育から脱却し、実践的にしていきたいとい

うことで1年生からセミナーをしています。そこではプレゼンテーションをすることで、読解力、人と人とのコミュニケーションを密にした教育を、教室での教育と平行して行う試みをしています。社会人基礎力や課題を見いだす、説得するという力をつけていってもらいたいという願いを込めた教育を1年生からしています。

B委員

大学はどこも初年次教育を重要視して独自のプログラムをたてていると思います。高校では先生に教えられていたが、大学では、問題を自分で発見し、学んでいかなければならないということで、そのギャップが大きいと思います。高知大では、自分で問題を発見し探求する課題探求型セミナーなどを行っています。

I委員

今までの大学は、地域から孤立していたようなところもありますが、今は地域の人と一緒に大学を育てていく、地域の人たちを巻き込んだ大学づくりが大事だと思っています。看護学部では「ふれあい実習」を地域で行ったり、あるいは地域の人から具体的な教育方法を教えてもらったりしています。今後の大学のあり方としては、地域とともにあり、地域とともに生きていく大学をつくっていくということが大事だと思います。新しい社会科学系学部も地域とともにつくっていく大学を目指していければいいと思います。

委員長

工科大も地域の企業と連携して新しいことをしていますが、新学部も地域貢献ができるようなことを考えておかなければならないと思います。

H委員

新学部の性格をどうするかということで、産業振興計画に大学としてどういう立場から貢献できるかを考えました。産業振興計画では、高知県の強みを3点整理し、この強みが産業振興や雇用の拡大につながっていないという分析をしています。

高等教育がどう関わるかという観点で分析しますと、強みを強みとっていない、それが当たり前だと思っている。それがいかにユニークなのかというところがきちんと把握できていないというところが、一つの弱みになっていると思います。高知県の強みの再発見、再認識、そしてこの強みを維持していく仕組みもこれから重視していかなければならないということが、新学部を考えていく上での一つのキーワードだと思います。

もう一つは1.5次産業のところで、付加価値をつけて全国にPRするということがありましたが、こういう強みを全国にPRするための情報発信力やこういった観点から付加価値をつけるのかといった点を産業と大学が一体となって進めていくということがキーワードだと思います。

3つめのユニークな人材ということで、これを雇用を生み出す産業としていくためには、ユニークな人材が力を発揮するようなサポート、マネジメントが要求されます。地域で、自分自身で起業することも大事ですが、地域の強みを全国に発信して育て上げていくサポート、マネジメントを強化することが必要だと思います。現在は女子大、工科大、高知大で個別にプロジェクトをする形で取り組んでいますが、これを一つの人材育成のプログラムとしてつくることを考えた場合には、新学部のアピールポイントとして立ち上げることができるのではないかと思います。

整理すると、まず強みの源泉がどこにあるのかを分析し継承すること、付加価値をつけて情報発信をすること、売り込むこと、そしてユニークな人材のサポート、マネジメントを強力に進めていく、これは新学部の理念として高知県にとっても重

要であり、こういう力は全国どこへ行っても通用するし、高知だったら自分の力を発揮して能力を試すことができるという意味で非常に魅力のある学部になるのではないかと考えています。

L 委員

高等教育という観点からいうと、高知県の状況にこだわらず、全国の多種多様な地域に通用する、その地域でそれぞれに適合した問題解決や発展の仕組みを構築できる人材が望まれるのではないかと考えています。学部としてどう発展していくかを考えたときに、高知県の視点にとどまらず、広い視野を持って、高知県は最初の一つのステップだという気概を持って、日本各地に進攻していくような人材が、長期的には求められるのではないかと思います。

G 委員

高知女子大では、高知に足を据えながら活動し、眼差しは世界を見るグローバルな人材をと考えています。

2030年、2050年の高知はどうなっているのか、永国寺周辺に産・学・市民共同の知の拠点的ホール、知的なコンベンションセンターを中心に、その周辺に高知の観光、自然、社会共通資本をふまえた「医食同源」、産業クラスター形成、さらに、その周辺に高知大、工科大、女子大の4つのキャンパスが連携した学部、学科、学群を形成し、さらにその周辺に生涯学習センター、社会人キャリアアップセンター、教養教育センターのようなものを共同で立ち上げる、そういう“木をみて森をみる”夢が描けるような検討が期待されるのではないかと思います。

委員長

いろいろご意見をいただきました。次に新たな社会科学系学部の方向性について、教育研究分野、県内他大学との連携、学部の規模なども検討しなければなりません。まずは事務局の考えを聞かせていただきたいと思います。

事務局

新学部の方向性についてですが、

- ・本県の学部系統別進学者数でも、商・経が法・政の2倍と多いこと。
- ・県の産業振興に貢献する経営能力の高い人材を養成したいこと。
- ・今回の高校生へのアンケート調査では、新たな社会科学系学部としては、多くの生徒が経済・経営系の学部を求めていること。
- ・全国的に見ても、新たに設置されている社会科学系学部は、経済・経営系ばかりであり、この分野のニーズが高いと思われること。

こういうことから、まずは経済・経営系の学部の検討がさけられないと思われるます。

連携ということでは、県内には、この分野として、高知大学人文学部社会経済学科、高知工科大学のマネジメント学部があります。その中で、特に工科大はこの4月に公立大学法人化し、県とのかかわりが一層深まります。県から考えると、工科大で培われている経験やノウハウを活用させていただき、また連携していただくことを検討すべきであると考えています。

学部の規模は、県立大学改革プランで定員は200名となっていますが、経営面から考えると、やはり一定の規模が必要であると考えられます。

こうしたことを参考に検討をいただければと思っています。

委員長

現在の事務局の考えは、希望の多い商・経の関係の学部で、規模は200名程度と

いうことでした。

短大も同じく社会科学系の教育研究をされているということですし、県の方針では、短大のあり方を、新たな社会科学系の学部と併せて検討したいという話が知事からも出ていたようです。新たな社会科学系学部に関しまして、短大の方から何かご意見はありませんか。

M委員

短大におきましては、2005年11月に社会科学系学部基本構想を教授会で決定しており、新しい要素も加えながら検討している状況です。今の時代は、社会人勤労者であっても、4年制の教育が必要であるということで1994年度から4年制構想を持っています。その構想をベースにして、県立大学改革推進委員会が出しました「高知県立大学のあり方」という提言を踏まえた上で、新たに基本構想をつくったところです。4つの視点から検討して特に2つの点に特徴をまとめたものです。(冊子を配布)

・ 4つの視点

「大学全入時代」においても独自の意味を持つ学部づくり

個性的で、教育研究面でも水準の高い、全国から学生が集まるような学部。

「地方の時代」を切り拓く、地域に生きる人々の力となる学部づくり

具体的には、地域の経営能力を持った担い手となる人材をつくっていく、高知県経済の発展に結びつく力となるような学部。

県立大学としての社会的役割を果たすことのできる学部づくり

県内の高校生の進学先の受け皿、公立大学としての地域貢献を果たせる学部。

社会人に対する高等教育機会の提供を充実・発展させ高知短期大学のこれまでの教育・研究の経験と力量を最大限に生かした学部づくり

・ 2つのポイント

多様な学び方が可能な、県民に開かれた学部

どんな年代、仕事を持つ社会人でも、必要な時、学びたい時に学べる学部づくり  
社会人がより高度な学びを実現するには昼夜開講制が必要

「ユニバーサル・アクセス」の実現

地域社会の創造的な担い手を養成する社会科学系学部

県外に行かなくても高知県において非常に水準の高い社会科学教育が受けられること

ゆるやかな3つのコースを設置

法律・行政コース 経済・経営コース 地域づくりコース

概略、以上のような構想を社会科学系新学部の方向性として提案しています。

委員長

短大の方から基本的な構想について、資料をもとに、どういう社会科学系がいいということをお話いただきました。

新たな社会科学系学部の構想について他にありませんか。

H委員

この冊子の中で述べられている社会科学系の新学部は、どこがユニークでどういった点をアピールポイントにしていますか。

M委員

問題を発見し解決する能力ということを1回生から系統的にゼミやフィールドワークで能力をつけるという点と、国際人をつくっていくということ、在学4

年間で実際に仕事で使いこなせる外国語を身につけるといいう点が教育上の特色となっています。

H委員 学部の領域、分野、専門性の中味について特色をお聞かせ下さい。

M委員 中味については、冊子の12ページに具体的な科目を載せていますが、ゆるやかな3つのコースを考えています。例えば法律・行政コースでは、裁判外紛争処理や知的財産法など新しい法分野を研究し、教育することを考えています。経済・経営コースでは一国経済視点の分析でないグローバルな研究分析ができるような内容を考えています。地域づくりコースでは、地球環境も含めた循環型社会といった研究面でのテーマを意識して科目を設定しています。

H委員 永国寺キャンパスに置く新学部ということで、他大学とどのような違いを強調するかを考えた場合、すでに文化学部があり、その中の文化創造専修という分野は、高知の地域をフィールドとして高知の隠れた文化を発掘して継承発展させるような人材を養成していくという目標を掲げています。地域づくりの部分では、一つの学部をつくる時にもっとアピールしなければならない部分だと考えています。その時、単に経済、経営、法という仕組みの部分だけでなく、文化学部との協働で、より教育の上で特色を持たせることができるということが、重要なアピールポイントとして新学部の設計に役立っていくと考えています。

もう一つの課題として生活科学部をどうするかという問題があります。個の生活の改善から集団、社会の生活への改善へとつなげていくことが地域の発展へとつながっていくという観点がありますが、生活環境改善に対して教育研究の実績を積み上げてきています。このベースをうまく取り込んで、現代の地域の生活に密着した形でいろんなものを取り上げることができるという意味で、大きな特色として活用できるのではないかと思います。

単に一学部の設計ということではなく、既存の学部を新しい学部の中にどのようにうまく取り込んでいくのかということ踏まえたうえで、全国的に見ても特色のある社会科学系学部としていくことが必要ではないかと思います。

I委員 新学部をつくる場合に、伝統的な学問体系を中心とするのか、総合的な新たな学問の領域としていくかということでもずいぶん違ってくると思います。高知大があり、工科大のマネジメント学部あるなかでつくっていくわけですから、何かユニークなものと同時に、より総合的という視点も必要だと思います。永国寺にある既存の文化学部等も含めて総合的に考えていく、総合的な力が出せるような視点も考えていった方がよいと思います。

委員長 前回の資料の5ページに県立大学改革プランということで県の将来構想があるわけですが、永国寺キャンパスで新学部をつくり、そして短大と併せてどうするかということと、現在ある生活科学部は新学部の方へ合流できないかというイメージになっているのではないかと思います。今まで積み重ねてきた生活科学部のこともいかに新学部に取り込むかということも、考えなければなりませんね。短大からの構想も含めて検討する必要があると思います。他にご意見はありませんか。

L 委員	<p>高知県という経済的にも厳しい状況下で新しいものをつくっていくということを考えると、目標や目的をどのように組み立てていくかということになると考えています。工科大は21年4月から工学部を3学群に改編しますが、当初は、名前を変えればいいのか、足せばいいのか、安易に考えていた教員もいたのですが、看板の掛け替えは非常にマイナスであると考えられます。</p> <p>今回は県のあり方、産業振興との関連から安心感もありますが、単に看板を掛け替えるとか、組み合わせるとか、分けるとかだけでなく、もう少し将来を見据えたものが求められていると思います。</p>
E 委員	<p>学部の規模で、1学年の定員が200人は、他大学と比べて多いような気もしますが、新学部としてはこれくらいの規模でないと経営が難しいのでしょうか。高知大社会経済学科、工科大のマネジメント学部もそのまま、ということですか。</p>
事務局	<p>経営的にこの人数だったということはあります。</p> <p>学生確保の観点もありますし、総合的にご検討いただきたいと思います。</p>
A 委員	<p>基本的に新構想は、スクラップアンドビルドと理解してよろしいですか。将来構想としてどこまで新しいものを出せるかということに関係してくると思いますが、これまで全国のいろんな大学で、経済のところはあまり上手くいってなくて、似たような名前のものでできる傾向があります。設置審の審査もありますので、新しいものをつくる時は、どんな科目のどういう先生を設けて、どうなっていくのか、理想像を良く点検して、決めておいた方が良いでしょう。</p> <p>またスクラップアンドビルドの規模をどれくらいと、県として考えているかということも大切です。高知市は大学が接近していますが、大学間で何か相互協力していますか。</p>
B 委員	<p>単位互換はしていますが密接ではありません。</p> <p>この検討会は永国寺キャンパスということですので、それに絞って発言をしなくてはと思っていたのですが、もっと大きなビジョンで、高知県の大学の融合や連携なども視野に入れておかなければいけないのではないかと思います。これからの時代は、大学一つだけで考えては乗り切れないと思います。</p> <p>永国寺キャンパスの新学部をつくる話は、商・経のニーズがあるからといって、定員200名でつくっても、おそらく先は見えてしまうと思います。すぐにそれをつくるのではなく、商・経に細かく絞らずに、もっと学際的に広いグローバルな視点での学部を考えていく方が良いでしょう。その時に、一つの大学だけでは、教員の数や専門分野など、まかないきれない部分がありますから、工科大や高知大ともっと密接に連携していくような構想でつくらないと、多分高知県の大学はこのままでは、未来はなく共倒れになってしまうと思います。</p> <p>もっともっと大きな視点で、ビジョンを検討する議論が必要だと思います。</p>
委員長	<p>高知大、工科大との連携は、永国寺キャンパスを考える上でどうしても考えておかなければならないと思います。工科大は4月から公立大学法人化されるわけですから、それも踏まえて考える必要があります。</p> <p>今日出た意見を事務局で、どれは取り入れられて、どれは無理だとか次回までに</p>

副委員長	<p>考えていただきたいと思います。重要な点は引き続き検討しなければと思います。</p> <p>今日いろいろな角度からご意見をいただきました。産業振興計画とのかかわりや大学本来の教育の位置づけ、現在の永国寺キャンパスのあり方に併せて、短大からは4年制構想の話もありました。短大の学生からは短大として残して欲しいという声も出ていますし、いろいろ検討しなければならない課題は残っています。</p> <p>いろいろ質問をいただいた中で、事務局としては一つの方向性として整理していかなければなりません。すべてのご意見が反映できる形にならないかもしれませんが、委員さんに直接、お話を伺いながら整理を進めたいと思います。</p>
委員長	<p>今回出された意見を事務局で整理していただき、それをもとに次回の検討会で、更に議論を深めていきたいと思います。</p> <p>それでは、「(4)次回開催予定について」、事務局の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>次回は3月26日10時から12時に開催。</p> <p>次回の会議までの間、委員の皆さんの、意見を確認するため、改めてお話をお聞きしたい。</p>
委員長	<p>事務局は、アンケートの複数回答の特徴と、文章ではわかりにくいので、図解できるようなポイントのわかりやすいもの、流れがわかるものを1枚で考えて欲しいと思います。</p> <p>特にご意見がなければ、これで終わります。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>